



特別史跡

旧閑谷学校

SHIZUTANI SCHOOL

世界最古の庶民のための公立学校



日本遺産



講堂(国宝)



積菜 (日本遺産構成文化財)

今もなお続く、
旧閑谷学校伝統の儀式。

江戸時代の学校には、儒学の祖孔子を祀る建物が造られることが多く、ここでは孔子の徳を称える積菜の儀式が行われました。閑谷学校では、貞享3年(1686)に始まり、現在は毎年10月第4土曜日に行われています。

特別史跡

旧閑谷学校

- 附 椿山・石門
- 津田永忠宅跡及び黄葉亭

国宝

旧閑谷学校講堂 1棟

- 附 壁書 1枚
- 丸瓦 1枚

重要文化財

旧閑谷学校 5棟

- 講堂[附 壁書・丸瓦]・小斎
- 習芸齋及び飲室・文庫
- 公門[附 左右練塀]

旧閑谷学校聖廟 11棟

- 大成殿[附 聖龕]・東階・西階
- 中庭・練塀・文庫・厨屋
- 繫柱石・石階・外門
- 校門(鶴鳴門)[附 左右練塀・石橋]

閑谷神社(旧閑谷学校芳烈祠) 8棟

- 本殿(芳烈祠)・幣殿(階)・拜殿(中庭)
- 中門(外門)・神庫(庫)・石階
- 練塀・繫柱石

旧閑谷学校石塀[附 飲室門]

登録有形文化財

閑谷学校資料館



公益財団法人

特別史跡 旧閑谷学校顕彰保存会

〒705-0036 岡山県備前市閑谷784 <http://shizutani.jp>

開 門=9:00~17:00 休館日=12月29日から31日まで

史跡受付

TEL・FAX 0869-67-1436



講堂学習



近代化の原動力となった旧閑谷学校 「日本遺産 第一号」に認定。

左図=「日本遺産」ロゴマーク

閑谷学校は江戸時代前期の寛文10年(1670)に岡山藩主池田光政によって創建された、現存する世界最古の庶民のための公立学校です。初めて閑谷の地に来観した池田光政は、「山水清閑、宜しく読書講学すべき地」と称賛、地方のリーダーを養成する学校の設立を決めたのです。この学校の永続を願う藩主の意を受けた家臣津田永忠は、約30年かけて、元禄14年(1701)に現在とほぼ同様の外観を持つ、堅固で美しい学校を完成させました。

平成27年(2015)4月には「近世日本の教育遺産群」として特別史跡旧弘道館、史跡足利学校跡、史跡成宜園跡などとともに最初の日本遺産に認定されました。学ぶ心・礼節を重んじた近世の教育が、近代化の原動力となり、現代にも受け継がれていることが認められたのです。開校以来、講堂の床に正座して論語を学ぶ姿は旧閑谷学校の伝統です。今日もここに学ぶ研修生の論語を朗読する声がこの谷に響いています。

閑谷学校の歴史

- 1666年(寛文6) 岡山藩主池田光政が和気郡木谷村延原を視察した。
- 1668年(寛文8) 池田光政が領内に123か所の手習所を設置した。
- 1670年(寛文10) 池田光政が木谷村延原に庶民教育のための学校を建てるよう津田永忠に命じ、延原を閑谷と改称した。
- 1672年(寛文12) 学房・飲室が建てられた。
- 1673年(延宝元) 講堂(旧)が完成し、池田光政が視察した。翌年、聖堂(旧)が完成した。
- 1675年(延宝3) 藩の手習所が廃止され、閑谷に統合された。
- 1684年(貞享元) 新聖堂が完成した。
- 1686年(貞享3) 芳烈祠(現在の閑谷神社)完成。初めて積菜が行われた。
- 1701年(元禄14) 講堂、習芸齋、飲室が付けられ完成。石塀が築かれ、現在のような閑谷学校の全容が整った。
- 1702年(元禄15) 御納所・椿山が造られ、光政の髪・爪が納められた。

鳥 閑 谷 学 校

1 校門 (鶴鳴門)

屋根は備前焼の本瓦葺き、棟に鯨を載せた正門。



旧閑谷学校の正門で津池の石橋と聖廟を結ぶ中間に位置します。

2 閑谷神社

創始者、池田光政を祀る神社。

閑谷学校の創始者、池田光政を祀っています。もとは「東御堂」、または光政の諡をとって「芳烈祠」と呼ばれていました。本殿内には御神体として光政の座像が安置されています。

3 聖廟

儒学の祖、孔子の徳を称える最も重要な施設。

孔子廟、西御堂とも呼ばれ、最も重要な施設として中央の一番高い所に配されています。奥の大成殿には孔子像が安置され、毎年10月には儒学の祖、孔子の徳を称える「釈菜(せきさい)」の儀式が行われます。

4 孔子像

金色に輝く、京都の名工による金銅像。

この孔子像は、朱子学者・中村惕齋に委託して、京都の名工が鑄造した「金銅像」です。孔子像は椅子に腰掛けたもので高さは90cm、朱塗りの八角形の聖龕(せいがん)に安置されています。毎年1月4日の「読初(よみはつ)の儀」、10月第4土曜日の「釈菜(せきさい)」など年に数日のみ特別公開されています。

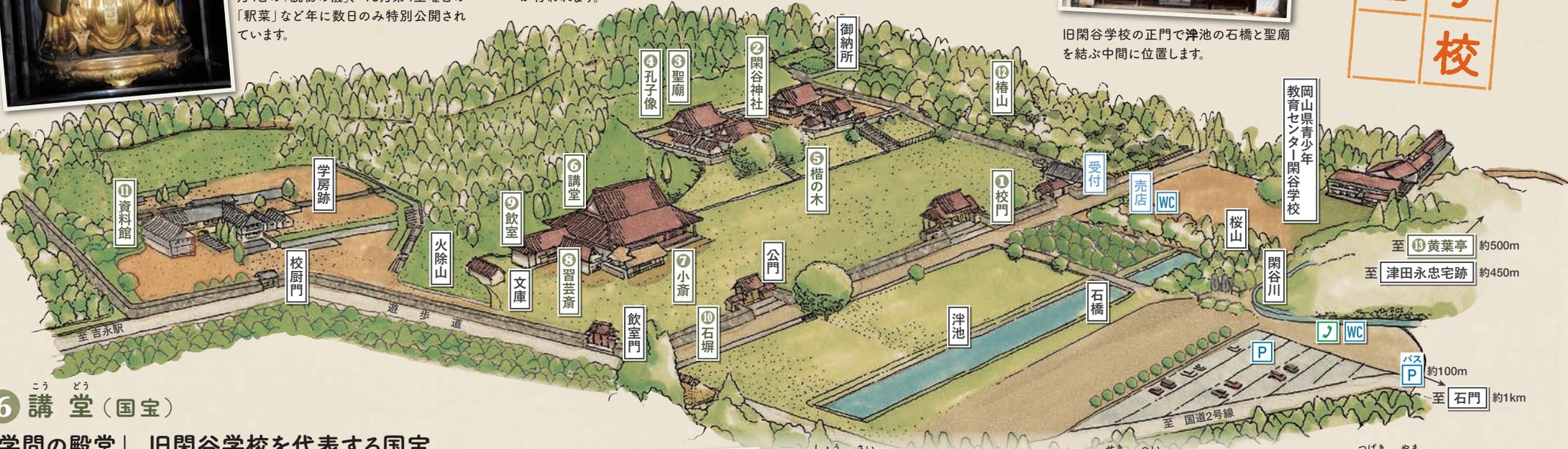


6 講堂 (国宝)

「学問の殿堂」、旧閑谷学校を代表する国宝。

講堂は入母屋造り、しころ葺きの大屋根と火灯窓が壮重な独特の外観を形作っています。創建当時は「茅葺き」でしたが、その後改築され現在の堅牢な「備前焼瓦」に葺き替えられました。内部は

十本の樺の丸柱で支えた内室と、その四方を囲む入側とで構成されています。また、拭き漆の床は生徒たちによってよく磨かれており、火灯窓から入る光をやわらかく反射させています。



7 小齋

藩主が臨学の際に使用する、御成の間。

屋根はこけら葺きで簡素な数寄屋風に作られています。現存する建造物の中では、最も古い姿を残しています。

8 習芸齋

農民たちも学んだ、教室として使われた施設。

毎月三と八の付く日は「五経」と「小学」、朔日(ついたち)には農民も聴講することができます。「朱文公学規」の講釈が行われました。

9 飲室

教師と生徒たちが、湯茶を喫した休憩室。

中央の炉のふちには「斯爐中炭火之外不許薪火」と彫り込まれており、火の使用に厳重な注意がはらわれていました。



5 楷の木

四季を通して情緒豊かな「学問の木」。

聖廟前に植えられた二本の楷の木は、中国山東省曲阜の孔林から種子を持ち帰り苗に育てられた内の2本です。紅葉の季節には美しく色づく楷の木を見ることができます。

10 石堀

300年を経て今も整然たる姿をたえらる。

学校全体を取り囲む765mにも及ぶ石堀は、備前焼瓦と並んで、旧閑谷学校に独特の景観を生み出しています。



11 資料館

明治38年の姿が残る、校舎を利用した資料館。

明治38年(1905)、学房跡に「私立中学閑谷養」の本館として建設されました。現在はその本館部分を資料館として公開し、旧閑谷学校の貴重な資料が展示されています。

12 椿山

守護の願いが込められた、神々しい雰囲気のある椿山。

椿山には約400本近いヤブツバキが植えられています。奥には池田光政の髪・爪・歯などを納めた供養塚「御納所」もあります。

13 黄葉亭

生徒から儒者、文人までが茶を楽しんだ憩いの場。

文化10年(1813)に来客の接待や教職員・生徒の憩いの茶室として建てられました。頼山陽や菅茶山など儒者や文人を迎え親交を結ぶ場としても使用されました。

